

個別の教育支援計画と個別の指導計画

★小学校・中学校新学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）における改訂のポイント★

小学校・中学校新学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）において、個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成について、次のように示されています。

- ・ 特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒については、**全員に作成**する。
- ・ 通常学級に在籍する（通級による指導を受けていない）児童生徒については、**作成と活用に努める**。

1 個別の教育支援計画について

個別の教育支援計画に関する Q & A を以下にまとめました。

Q 1 : 個別の教育支援計画とは何ですか？

→A 1

学校生活だけでなく家庭生活や地域での生活を含め、長期的な視点で幼児期から学校卒業までの一貫した支援を行うために学校が中心となって作成する計画です。そのため、教育関係者に加え、家庭や医療、福祉などの関係機関と連携した支援が不可欠です。

Q 2 : 個別の教育支援計画に記載するのはどのような内容ですか？

→A 2

様式は、各市町、学校等によって異なりますが、以下のような内容を盛り込んで作成します。

- ①これまでの支援内容及び支援上の課題
- ②現在の生活・将来の生活に関する本人・保護者の希望
- ③本人・保護者の希望をもとに考えられる支援目標
- ④関係機関における支援（担当者、支援内容、合理的配慮等）
- ⑤学校における支援（担当者、支援内容、合理的配慮等）
- ⑥評価及び今後の課題

Q 3 : 作成と活用のためのポイントは何ですか？

→ A 3

下表の留意点を参考にしながら、①～⑧の手順で作成します。

個別の教育支援計画を活用し、就学前から就学時、学校卒業までの切れ目ない一貫した支援をめざします。

本人・保護者の同意を得ながら作成すること、教育関係者に加え、家庭や医療、福祉などの関係機関と連携すること、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）を繰り返すことが重要です。

	手順	留意点
P	①実態把握	・ 障害の状態や発達段階の把握 ・ 学校、家庭、地域での生活や関係機関による支援の現状についての把握
	②本人・保護者の希望の把握	・ 教育、家庭、医療、福祉など様々な分野からみた現在の生活や将来の生活についての希望の把握
	③支援目標の設定	・ 子どもの実態や希望を踏まえた支援目標の設定 ・ 保護者・関係者・関係機関の共通理解
	④支援内容の決定	・ 各関係者・関係機関が提供する支援の内容、合理的配慮の決定 ・ 関係者・関係機関の役割の明確化
D	⑤計画に基づく支援の実施	
C	⑥評価	・ 支援目標の実現状況の評価 ・ 支援目標や内容等が適切であったかの評価
A	⑦見直し	・ 評価に基づく定期的な見直しと変更時の加筆、修正



⑧引継ぎ	・ 引継ぐ内容や方法等については、本人や保護者の理解を得ること ・ 担任や特別支援教育コーディネーターが中心となった、進級及び進学時の支援目標、内容、合理的配慮等の丁寧な引継ぎ ・ 学年・学校間での引継ぎ会等の計画的な実施
------	---

2 個別の指導計画

個別の教育支援計画に関するQ & Aを以下にまとめました。

Q 1 : 個別の指導計画とは何ですか？

→A 1

障害がある子ども一人一人の教育的ニーズに対応して、**指導目標や指導内容・方法を明確にして、きめ細やかに指導する**ために学校が作成する計画です。個々の子どもの障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を**組織的、計画的**に行う必要があります。

Q 2 : 個別の指導計画に記載するのはどのような内容ですか？

→A 2

様式は、各学校によって異なりますが、以下のような内容を盛り込んで作成します。

- ①実態（学習面、行動面、生活面、運動面など）
- ②目標（長期・短期）
- ③指導・支援内容（手立て）
- ④評価

Q 3 : 作成と活用のためのポイントは何ですか？

→A 3

下表の留意点を参考にしながら、①～⑦の手順で作成します。

一人一人の教育的ニーズに基づき、指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして指導を行います。その後、指導に対する評価を行い、指導内容や指導方法を工夫、改善し、指導目標の達成へとつなげます。**計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）**を繰り返すことが重要です。

学校と家庭の一貫した支援が行えるよう、**本人・保護者の同意**を得ながら作成し、計画の内容を保護者と**共有**します。

	手順	留意点
P	①実態把握	・ 障害の状態や発達段階の把握 ・ 行動面、学習面、生活面、運動面など多角的な視点からの把握
	②目標の設定	・ 長期目標は学期ごとまたは1年間で、短期目標は単元ごと、学期ごとに達成をめざす内容を検討 ・ 観察及び評価可能な目標の設定 ・ 実態と目標（長期目標と短期目標）、長期目標と短期目標の関連性が明確

	③指導・支援の内容	・目標を達成するために必要な指導・支援、合理的配慮の決定 ・指導・支援、合理的配慮の内容、量を具体的に決定
D	④計画に基づいた指導の実施	
C	⑤評価	・目標の実現状況进行评估 ・支援目標や内容等が適切であったかの評価
A	⑥見直し	・評価に基づく定期的な見直しと変更時の加筆、修正



⑦引継ぎ	・担任や特別支援教育コーディネーターが中心となった、進級及び進学時の指導目標、内容、合理的配慮、指導目標の達成状況等の引継ぎ ・学年・学校間での引継ぎ会等の計画的な実施
------	---

3 個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式について
各計画の様式例を示しますので、参考にしてください。

(1) 個別の教育支援計画 様式例

I フェイスシート				
名前		性別		生年月日
住所		電話番号		
関係施設				
主障害		併せ有する障害		
診断名				
療育手帳	(. . . 交付)	身体障害者手帳	(. . . 交付)	
精神障害者保健福祉手帳	(. . . 交付)			
保護者名		緊急連絡先	:	
住所				
家族構成	家族構成図	名前	生年月日・学年	続柄
出産前後の状況	時期	項目	備考	
	胎生期			
	出生期			
	乳幼児期			
療育の状況	療育機関名	期間	療育内容	
前籍校園の状況	学校園名	期間	備考	
医療に関わる特記事項				
生育歴に関わる特記事項				

Ⅱ 個別の教育支援計画			
名前			
担任・記入者			
1 これまでの支援内容および支援上の課題			
2 現在の生活・将来の生活に関する希望			
(1)本人の希望			
(2)保護者の希望			
3 本人・保護者の希望をもとに考えられる支援計画			
(1)現在の生活の充実のための目標			
(2)卒業後の生活をめざした目標			
4 関係機関における支援内容			
家庭 担当者	医療 担当者	福祉 担当者	その他() 担当者
支援内容・方針	支援内容・方針	支援内容・方針	支援内容・方針
5 学校における支援内容			
(1)学習支援の主な課題・配慮事項			
(2)在籍校・交流学級における支援		担当者	具体的な支援内容・方針
(3)特別支援学級等における支援		担当者	具体的な支援内容・方針
6 合理的配慮			
7 評価及び今後の課題			

・この教育支援計画の記載内容に同意します。
 ・上記の関係機関の間で、この個別の教育支援計画の情報を共有することに同意します。

平成 年 月 日 保護者名 _____ 印

(2) 個別の指導計画 様式例

I 個別の指導計画（児童生徒の実態）		
年 組 名前		
児童生徒の実態		
諸 検 査 の 記 録		
学 習 面		
行 動 面	コミュニケーション	
	対人関係	
生 活 面		
運 動 面		

Ⅱ 個別の指導計画（○学期）			
年 組 名前			
本人の希望			
保護者の希望			
長期目標			
	1 学期	2 学期	3 学期
短期目標			
具体的な手立て			
変容・評価			

